



保坂恭子副院長

院長は「引き続き院内感染対策を徹底する。安心して来院してほしい」と呼び掛ける。
同院は3月8日、米ファ

やまなし 医療最前線 30ナ収束の鍵 県立中央病院から

〈226〉

新型コロナウイルスの収束に向け、ワクチン接種は大きな鍵を握ると言われている。山梨県立中央病院は職員接種を終了させ、検査で接種者に抗体があることも確認した。保坂恭子副

イザー製ワクチンの接種をスタート。妊娠初期や当日の体調による影響を理由に接種を受けられなかった職員を除き、1357人が2回目の接種を終えた。

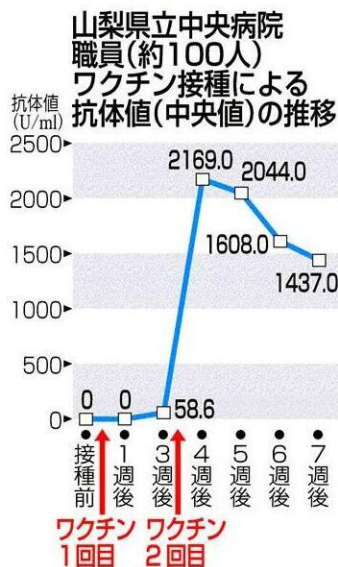
ワクチンの効果を確かめる先行研究として、20〜60代以上の約100人を対象に接種1回目以降の抗体値の推移を調べた。2回打つ

ことで効果が高くなることや2回目の接種から1〜2週間後に最も抗体値が増えることが分かった。結果を踏まえ、このほか

十分な抗体値の上昇が確認されたという。保坂副院長は「別の感染症などに対応する従来のワクチンでは必要回数接種を終えても抗体の産出がうまくいかないケースがある。新型コロナウイルスは非常に有効性が高い」と評価する。発症予防だけでなく、重症化を防ぐ上に感染

ワクチン接種職員1300人超を調査

2回目後十分な抗体確認



しにくくなる効果も海外では報告されている。

同院は重篤な患者に対応する県内唯一の3次救急医療機関で、総合周産期母子医療センターや高度救命救急センター、がん診療連携

拠点病院の機能を備える。保坂副院長は「重症者の中

心とした新型コロナウイルス患者の治療に加え、通常診療の継続が欠かせない。ほぼ全職員がワクチン接種を終えたことは大きな前進」と胸をなで下ろす。

一方、高齢者を中心にワクチン接種が進められているが、人口の一定数以上に接種が進むことで流行を防ぐ「集団免疫」の獲得には至っていない。感染力を高めた、抗体の効き目を弱めたりするとされる変異株も広まっている。

このため、同院は入院患者を対象にしたPCR検査や家族の面会制限は続けていくという。保坂副院長は「ワクチン接種で多くの人が抗体を持ち、入院患者や家族の負担がなくなるようにしたい」と話している。